

教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第9号 2019.3.22



「着任初期のころ」

金沢大学名誉教授
諸岡 康哉

年が明けてそろそろ締切近い貴誌同窓会会報の依頼原稿を書かねばと思っていた矢先、10日の読売新聞に水越敏行先生の訃報が掲載され驚きました。「1月1日に肺炎で86歳で逝去、既に家族の方で葬儀も終えた」とのこと、弔問に行けなかったことが悔やまれました。水越先生は、1975年まで教育学部に在籍され、その後大阪大学へ転任、その後任として教育学部に着任したのが私でした。

1975年10月に広島大学教育学部の助手から金沢大学教育学部の講師として着任したのです。その折、水越先生には、はじめての金沢で不安な私を妻と共に鈴見台の自宅に招待され奥様の手料理でもてなしていただきました。心強く、嬉しかったことまた恐縮したことを思い出します。

爾後、2012年に定年退職するまで37年間、金沢大学に在職しました。教育学部では長く在職した教員の一人だと思います。専門は教育学・教育方法学でした。「教育方法学」という講義を中心に教職関係の講義をこの間受け持ってきました。

特に「教育方法学」の講義は選択必修科目でしたが、単独開講(同じ時間帯に他の講義が開講されていない)だったので、最も多くの学生が受講した講義だったと思います。1975年から2012年間に教育学部(その後学校教育学類)に在籍した学生はほぼ全員が私の講義を受講していたはずで、この講義は学部でも最も受講生が多いマンモス講義でもありました。城内に学部があったころは、木造校舎の小部屋をぶち抜いて作られた2階が収容人数の最も多い講義室でしたのでいつもこの講義室を使っておりました。学生定員が多かった時期は、ほぼ300名近い学生が受講し、床が落ちるのではないかと心配もしていました。この木造教室は、戦前の第9師団(石川、富山、福井の兵士たちで編成)の兵舎跡だということでした。教室の天井を見ると、中廊下で区切られた内務班(軍人教育の基本単位で16名程度で構成され起居を共にし、軍隊での訓練をうけた)の部屋がいくつかあったと思われる柱の跡が残っていました。受講生と同じぐらいの年齢の青年が戦前はここで厳しい軍人教育を受けていたことを思うと感慨深いものがありました。

また、理学部や文学部の教員免許取得学生のための講義も担当していましたので、相当多くの学生が受講していたこととなります。大講義を担当すると「私は知らないのに相手は知っている」と

いう関係になります。狭い金沢の街ですのでいつもだれかから見られているという奇妙な感じでの生活でもありました。

学部の教育・運営は、教務委員会、補導委員会、財務委員会の3つの委員会で行なわれていました。ローテーションで委員になり、最初に所属したのは補導委員会(この頃は「補導」?!という言葉を使っていました。のちに学生委員会に名称は変えられましたが)でした。授業外で学生との関係をもつ立場になりました。その頃、文部省の「厚生補導特別企画」という予算措置があり申請すればかなりの額の予算が配分されました。大学紛争のなごりもあり、正課外の諸活動で学生と教員の関係を良好にしていくという趣旨のようでした。1980年代に入った頃であり私は、30歳半ばぐらいだったかと思います。スキーブームが日本列島を席卷して野火のように広がっていくはしりの頃でもありました。そこで補導委員会が中心となって予算申請をし、学生と共にスキーをするという企画が始まりました。長野県の柵池スキー場でたしか高原荘という民宿に二泊し、三日間の日程で組まれました。この企画は大学がお膳立てをしてくれ、かつ格安なため学生の間で人気があり、募集をすると朝6時から行列ができ申し込むという状態でした。教官を含めて総勢100名以上が参加する大規模な企画でした。

私は、スキーをしたことがなかったのですが、補導委員でもあり学部では若手教官でもあったため参加せざるを得なくなり、学生と一緒に初心者班に入り、三日間ゲレンデで悪戦苦闘しました。私の班を指導されたのは高齢の体育の教授でした。どんな滑り方をしても、「諸岡先生、お上手ですね」と言われ、私とだけ早めに切り上げてゲレンデのレストランでお酒の相手をさせられました。また他の先生方や学生とは日中のゲレンデだけでなく、終わった後の全体でのコンパ、また反省会と称して先生方とお酒を交えての二次会などを通じて一気に学生や同僚との距離が近くなるという得難い体験をしました。

あれだけの人数で学生や同僚と楽しく過ごしたことは、私の金大時代には後にも先にもない体験でした。この企画が一つの起爆剤となり、学生と一緒にスキーに行く教室があちこちで見られました。私の所属していた教育学教室も1月の卒論提出日の翌日から教室の学生と教官がスキーに行くことが恒例の行事にもなっていました。今にして思えば自分の年齢や当時の時代状況が濃厚な人間関係をつくっていたのだなと思います。

その後、角間への移転、大学・学部の改組、法人化などが進み、私も附属学校長などの管理職の一翼を担うこととなり、会議の合間に講義や学生指導を行っているような大学生活になっていきました。着任してからの10年間くらいが大学での「私の青春時代」だったのだなと今になって思います。

シリーズ 大学を訪ねて⑥

金沢大学人間社会学域

学校教育学類附属高等学校

校長 山本 吉次



本校は、昭和20年（1947年）1月に設置された特別科学学級を母体として、昭和22年に金沢高等師範学校附属中学校（旧制）として創設されました。以来、

高等学校教育の理論的・実証的研究や金沢大学生の教育実習、教育研究の先導的試行等の使命を果たしてまいるとともに、9,000名を越える卒業生を輩出し、各界で多くの皆様が力強く活躍しております。

さて、平成26年度、本校は「地球サイズの教育」を学校目標として決めました。「地球サイズの教育」とは「国際社会や地球生態系の共生者として、自らの責任を積極的に果たして行く人間を育てる」ことを指します。同時に、高校段階からグローバル・リーダーを育てることを目標とする文部科学省スーパーグローバルハイスクール（SGH）第1期校に指定され、「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーの育成」を構想し、5年間、実践研究を進めてまいりました。金沢大学との密接な協力関係を根拠にした本校のSGHカリキュラムは、文部科学省からも「特に優れた取り組みである」と評価され、全国の教育関係者からも注目を集めています。

一方、本校の校風は「自主・自律」です。これは本校生の学校生活のすべてに浸透しています。それを象徴するのが、2年生が開校記念祭において上演する歌舞伎です。演出も、大道具・小道具も、着付け・化粧もすべて生徒自身で行います。50年以上続く本校の伝統行事です。そのほか、運動会、スポーツ大会、歌の祭典、如月祭（3年生を送る行事）なども基本的にはすべて生徒自身によって運営されます。夏服の自由化もその事例の一つです。平成9年に、生徒の運動によって実施されました。学習面でも、自主ゼミの開催や、生徒同士が教えあうなどの光景を校内各所で目にします。

SGHに指定されて大きく変わったことがあります。それは、本校が「開かれた学校」になったことです。たとえばSGH「地域課題研究」です。地域課題について解決策を提案するプログ

ラムですが、北陸財務局や日本政策金融公庫の方々により指導、評価していただいています。また、金沢大学の留学生の支援も受けています。SGH「グローバル提案」や英語科「グローバル・ディスカッション」です。「グローバル提案」はグローバルな課題「食糧安全保障問題」について模擬国際会議を行うプログラムですが、自分たちの話し合った考えを、留学生を前に英語でプレゼンテーションします。また、「グローバル・ディスカッション」では留学生と少人数単位で様々なトピックについて英語でディスカッションします。

一方、生徒たちは積極的に学校外でチャレンジするようになりました。本校には「SCHOLA」という生徒自身で生徒の自主的活動を支援する組織があります。そのもとで、外部の大会、コンクール、セミナーに多くの生徒が参加するようになりました。その代表的なものが、平成29年のエコノミクス甲子園全国優勝や、平成30年、オランダで開かれた「現実問題を数学でモデル化」するコンクールA-lympiad 世界大会銅メダル受賞です。短期・長期の海外留学も増加しています。

現在、全国の附属学校園には、地域のモデル校となるような先進的な取り組みが求められています。SGHは、平成31年3月で指定が終了します。しかし、本校は金沢大学と一体となり、ワールド・ワイドな教育の、北陸地域における拠点になるべく努めてまいろうと考えています。

最後になりましたが、附属学校園の校長選任の方法が平成30年度から大きく変わりました。従来は教育学部あるいは学校教育学類教授が併任していましたが、校長は公募となり、専任・常駐となりました。また、5つの学校園を統括する存在として、附属学校園統括長が置かれました。学校教育学類教授がこれに就いています。なお、初年度の平成30年度は、小学校長を除く4校園長には副校園長が昇任しました。

第5回 KK40同期会 (S40.3初等教育科卒) 開催

平成30年10月24～25日 柴山温泉・翠湖

KK40会(教育学部S40.3卒同期生)は、2018年10月に第5回目となる同窓会を柴山温泉・翠湖で開催しました。

私たちの教育学部校舎は、当時金沢城内にあり石川門を入れて左側の二の丸広場あたりだったように思います。第4回同窓会では城内を巡る企画をし、メンバーの一人が学生時代の思い出写真と組み合わせてDVDを作成し、参加者に配布して好評を得ています。

第1回は2008年(KKRホテルかなざわ43名)、第2回は2011年(湯涌温泉戸田屋34名)、第3回は2014年(辰口温泉まつさき 29名)、第4回は2016年(湯涌温泉やました24名)と、この10年は2～3年毎に開催してきました。

世話人はいつもの金沢の方々にかわり、第3回に続いて能美・小松地区が受け持ちしました。第4回から企画した周辺の観光も計画し、今回は那谷寺や片山津の雪の科学館、首洗い池なども巡りました。

卒業当時92名だった同期生も、現在連絡が取



第5回KK40同期会
2018年10月24～25日 柴山温泉・翠湖

れる人は85名になりました。その85名に春と夏の2回案内状を出し、69名から返事があり、そのうち26名が参加できました。

参加者はもちろん、参加できなかった人達にも返信に書かれていた近況報告を送って、つながりを深めるようにしています。また見学や交流会の様子などもDVDにして配っています。毎回参加者が15名、卒業以来50年ぶりに初めて参加した人もいました。みんな和気藹々、「毎年計画して!」の声もありました。(文責 山根)

S39年 初等科卒 喜寿記念・最後の三九会 開催

平成30(2018)年7月10～11日 湯涌温泉・あたらしや

私達は、昭和35年日米安保の年に入学し、卒業したのはアジア初の東京五輪開催年の昭和39年でした。卒業生の殆どは、小・中校教師として、小規模校や僻地校に赴任し、単級や複式・複々式学級担任として何もかも全責任を負って不安ながら教師生活をスタートしたものです。

私は卒業後、皆の消息が知りたくなり、今は金沢城五十間長屋となっている所にあった学生課を訪ねて卒業名簿を見せてもらい、100名の同窓会名簿を手書きで作成しました。以来半世紀の間に、規模の大小はあれ20回近くも同窓会を続けて来られたことに感慨を覚えます。

いつの間にか、39の語呂合わせで三九(サンキュウ)会という素晴らしいネーミングが誕生し幹事は各地区持ち回りとなり、開催地は金沢を中心に郷土自慢の温泉地を巡りました。湯涌温泉・深谷温泉・加賀温泉郷・芦原温泉・和倉温泉・輪島温泉・氷見温泉郷・庄川温泉等で毎回趣向を凝らした内容で楽しみ絆を深めてきま

した。2年前の平成28年7月の三九会の折、今後の会運営について話し合い、次回を「喜寿記念最後の三九会」とすることに致しました。

今回が最後ということで、初参加や久方ぶり参加を含め35名が相集い、和やかな一晚を過ごしました。宴会では、日舞・シャンソン・ソプラノ独唱が披露され、一人2分間厳守の近況報告で最高潮となり、各自が諸分野で生涯学習に励んでいる姿に励まされ、今後の互いの健康を祈念してお別れすることに致しました。

(三九会会長 菅波清子 記)



金沢大学教育学部 三九会 喜寿記念同窓会 平成30年7月10日 金沢市湯涌温泉 あたらしや

☆☆☆学友支援室からのお知らせ☆☆☆

2019年度「金沢大学ステークホルダー協議会in大阪」および「合同懇親会」のご案内

関西圏では初めての試みとなる、金沢大学主催の「金沢大学ステークホルダー協議会in大阪」を下記のとおり開催いたします。忌憚のないご意見・ご要望・ご質問を山崎学長に賜ればと思います。**出席希望の方は、2019年9月13日（金）までに下記連絡先へE-MAILないしFAXでお願いいたします。**学長がお待ちしております。

記

1. 日 時：2019年10月19日（土） 17:00～20:00（受付16:30より）
2. 会 場：大阪新阪急ホテル2階（JR「大阪駅」御堂筋口から北側陸橋を渡ってすぐ）
〒530-8310 大阪府大阪市北区芝田1-1-35 TEL 06-6372-5101 FAX 06-6374-6885
3. 次 第：【金沢大学ステークホルダー協議会in大阪】17:00～18:20 2階『花の間』【参加無料】
ご意見等は今後の金沢大学の運営等に役立てていただくことを目的としています。
【合同懇親会】 18:30～20:00 2階『紫の間①②③』
4. 懇親会費：10,000円（予定：当日、受付にて現金でお支払い願います。）
5. 連絡先：金沢大学学友支援室
E-Mail：gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp
FAX：076-234-4033 / TEL：076-264-5081
6. お申込みの際のお願い：以下について必ずご記載願います。
氏名・卒業学部・卒業年・住所 及び
A：ステークホルダーin大阪のみの参加，B：合同懇親会のみの参加，C：両方参加

2019年の第13回ホームカミングデイは、10月26日（土）に開催！

昨年の第12回は、2018年10月27日（土）、本学角間キャンパスにおいて、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を開催しました。歓迎式典には208名、懇親交流会には189名の卒業生およびそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな1日になりました。

特別講演では、東北大学電気通信研究機構特任教授で本学理事の中沢 正隆氏（昭和50年工学部卒業）に、「金沢と私、そして研究」と題し、学生時代の思い出や技術開発が、試行錯誤の連続であった苦労話などをお話されました。

次回、第13回金沢大学ホームカミングデイは、2019年10月26日（土）に開催します。この前後に同期生やサークル仲間のみなさまとの同窓会の開催をご計画いただき、懐かしい母校にぜひお越しください。

教育同窓会 会計決算報告 (H29年度)

平成29年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H29.4～30.3)

| 【収入】 | | |
|--|-----------|----------------------------|
| 項目 | 金額(円) | 備 考 |
| 1 繰越金 | 1,641,505 | |
| 2 会 費 | 1,375,780 | 29年度入学生69名(振込手数料込み) |
| 3 利 子 | 15 | |
| 合 計 | 3,017,300 | |
| 【支出】 | | |
| 項目 | 金額(円) | 備 考 |
| 1 会議費 | 0 | |
| 2 通信費 | 14,241 | 住所変更連絡料金後継副課長 事務連絡費 |
| 3 事務用品費 | 1,689 | 印刷用紙 封筒など |
| 4 分担金 | 0 | |
| 5 印刷送費 | 1,067,224 | 会報No8・封筒印刷・会報発送、振込手数料 |
| 6 慶祝費 | 151,000 | 29年度卒業祝 図書カード(1,000円×151人) |
| 7 その他 | 6,000 | 会報原稿執筆謝礼 |
| 合 計 | 1,240,154 | |
| 収入総額 3,017,300－支出総額1,240,154＝1,777,146 | | |
| 【差引残高】 1,777,146円は30年度事業に繰り越し | | |

★臨時同窓会費(一口1,000円)にご協力ください★

【ゆうちょ銀行】 振替番号:00710-9-100435

加入者名:金沢大学教育同窓会

同窓会名簿の維持と会報発行事業のためにお願います

★同窓会情報を教えてください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、**同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。**(情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載しますので、幹事様のお名前をご連絡ください)。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学事務局 学友支援室
TEL 076-264-5081

gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

臨時同窓会費にご協力いただいた方々(平成30年度)

三田 憲司 徳永 節子 阿部 正太郎 (敬称略)

編集後記

高齢化社会が進む中「年賀状じまい」が話題となりましたが、「同窓会じまい」も耳にするようになりました。お世話する方々のご苦労はお察ししますが寂しいことです。「会」としてはお仕舞いにしても、個人的なつながりは継続して戴きたいものです。
(副会長 澤野)